

白井市議会議員ワークショップ 結果報告



- 2

・駅周辺をにぎわいの場に ・西白井駅、駅ビル計画 ○解決策（続き） ・ダンス、音楽、スケボー ・中には公共施設も ・駅前の活性化、広場・公園・水遊び ・優良企業誘致による人口移住 ・学校体育館にエアコン設置 ・場所をつくる ・みんなが集まれる場をつくる ・空き家の有効活用 ・使える空き家まとめ情報をつくる ・県営住宅安い賃貸 ・老人憩いの家や介護サービス、カラオケ ・バスで行こう、今井の桜 ・サロン西白井、梨の実が 100 円でコーヒー成功している ・河川敷を活用した自転車、散歩道 ・白井の立地を生かす神崎川 ・緑化 ・部活の e スポーツ化、多様化	・ゲーム機を提供してもらう ・会社帰りに 1 杯呑める店が必要 ・子どもがくる場所、白井の良いところ活かす ○その他（枠外のもの） ・学校給食費無償化 ・子育てしやすい街 ・新駅の誘致 ・物価高騰で食料を減らしている ・学びの格差 ・子ども・シニア食堂 ・子どもが楽しめる場所 ・イオン・マルエツをビル内に ・子どもが楽しめる場所 ・平塚分校の有効活用 ・外国籍の市民に消防団に ・もぐらたたきやワニ退治などゲームセンター ・チケットを配布か自由利用 ・自然エネルギー、太陽光、バイオマスエネルギー ・学校の断熱化
発表内容 要旨	
（前提として） ・今後 10 年間で少子高齢化は止まらない ・今後 10 年間は企業誘致によりお金は大丈夫 政策として ・（地球温暖化対策も兼ねて）みどりとふれあうまち ・健康長寿（人口減少は止まらない） ・貧困対策 課題として ・駅周辺の市街化調整区域の市街化 ・駅ビルの活性化 ・駅周辺のにぎわい ・若い人が転入できるようなまちにする ・学びの格差を減らしていく ・熱中症などの災害対策 ・土地利用の活用、目玉となる場所がほしい。みんなが今ある場所を使える仕組みにしていきたい。 総合公園とか小学校、空き家などいろんな資源を活用していくのが今後の課題	

解決策として

老若男女が活躍できる場として、シニア食堂運営、老人憩いの家やデイサービスでカラオケの他、梨トレ体操などの高齢者向けの体操があるが、それ以外にも高齢者が身体を動かすためのもぐらたたきなどのゲームをしていく場が必要という意見があった。

熱中症などの災害対策として、梨の泉のような水と触れ合う場の整備、自然エネルギーの活用と学校の断熱化、学校のエアコン設置が必要という意見があった。

若い人が転入できるようなまちにするために、優良企業（誘致）により人を集める、平塚分校の有効活用、県営住宅など安い賃金の場所を確保する、スケボーなどができる市外の人も集まる公園の整備が必要という意見があった。

その他、河川敷に自転車道・遊歩道を整備して緑化も進める。西白井で成功している梨の実サロンのようなサロンを自治会館や空き家、学校の空きスペースなどを活用して作り、みんなが集える場をつくる必要があるという意見があった。



模造紙の内容

タイトル

『人・もの・お金が循環するまちづくり』

【定住】

<市街化調整区域>

- ・緑の保存をしつつ魅力あるまちづくり
- ・誰もが住みたい、住み続けたい→市街化調整区域の一部制限の解除
- ・高齢化により畑（梨園）などの耕作者が減少→耕作していない土地が増加
- ・人口の増加、固定資産税の増加が見込める
- ・制限を解除して住宅に緑を植えるなどの条件を加える
- ・個人の理解をどのように得るかが課題
- ・高齢者、障がい者等、市内で活躍する場増やす

<公共交通>

- ・コミュニティバスも人材不足により便数が減少→NPO 法人等の運営によってデマンドの利便性を確保→ルートをどの様にするのか、AIを使うなど

- ・公共交通、民間とのネットワーク
- ・(交通問題は) 世代を問わず市民が課題としている

- ・免許返納者が増えていく

- ・年々、交通の不便を感じる市民が多い（ルート・時間）

- ・民間バスとのバランス

- ・福祉バス料金アップ デマンド交通（AI）

<高齢化>

- ・高齢化 NT 開所時の同世代で超高齢者へ

- ・移動手段 買い物、ゴミ出し、不便

- ・公共交通空白地帯解消
- ・高齢者の外出支援→デマンド交通の導入

【定住＜高齢化＞（続き）】

- ・独居・成年後見人
- ・電動自転車購入補助
- ・移動販売車
- ・ネット販売
- ・自治会の地域力

【教育】

＜子育て教育の充実＞

- ・選ばれるまちになるために教育の重要性が増
- ・幼稚園や認定こども園（質の高い教育をしている）に助成する
- ・子育て世代に選ばれる街にしたい
- ・子育て世代の全国的な取り合いになっている
- ・質の高い幼児教育が受けれる街
- ・自然を取り入れた情操教育
- ・文教都市のアピール
- ・（保・幼）小中一貫校
- ・（結婚しない若者が多いから）学生時代にママやパパになる準備ができる街
- ・中高生が赤ちゃんに触れ合う場が少ない
- ・中学・高校に赤ちゃんや幼児連れでママたちが訪問

【土地の有効活用】

＜自然の活用（子育てと自然の共生）＞

- ・市民全体に活気をもたらし生き生きと暮らせるまちをつくるため子どもの笑顔があふれる街
- ・子どもが減っている子ども達の元気はまちの元気
- ・自然体験の場づくり
- ・子育て政策の充実

＜財源確保＞

- ・財政推計上でも今後厳しい
- ・印西クリーンセンター、文化センター、公共施設（学校、インフラ）に莫大な出費が生じる

- ・地域に若者がどんどん減る
- ・住宅のローテーション、リノベーション
- ・使い切れない農地を活用
- ・農家の減少、担い手不足
- ・耕作放棄地の増

＜駅前活性化＞

- ・企業誘致
- ・企業しやすい街、チャレンジしやすい街
- ・多世代の人が集まるスペースがほしい
- ・駅前が活性化されていない
- ・レンタルお店のスペースを作る
- ・コンテナとかで時間貸しができるようにする
- ・白井駅前にアーケード

【連携】

＜持続可能な街づくりのため＞

- ・広域化
- ・持続可能な自治体（のため）若者を呼ぶ
- ・自治体との連携
- ・大学との学部連携
- ・ウマ娘カフェ（ゲームの中になし坊を）
- ・循環バス、公共施設、福祉施設、特別支援学校

＜人材活用の充実＞

＜誰でも働ける場の整備、多様性＞

- ・他自治体とのつながり+大学+民間
- ・親元に子どもを引き寄せる
- ・支え合う社会の実現を目指して
- ・少子高齢化による労働者の確保
- ・生きがいづくり
- ・社会参画
- ・自己実現→主体的に生活することの満足感
- ・仕組みがない、マッチングもできない、経験がない
- ・市役所内の仕事を切り出す→業務を削減
- ・積極的に外部に委託→高齢者・障がい者の仕事につなげる
- ・シルバー人材センターの有効活用
- ・障がい者雇用の制度確保

・土地が少なく消費者ニーズなどに、先になればなるほど期待が薄くなる ・駅周辺の商業ビル（地権者には等価交換…）サウンディングで市が企業を…	・子ども真ん中社会の実現に合わせた行政組織の構築
＜人材活用の充実＞ ＜誰でも働ける場の整備、多様性（続き）＞ ・虐待やいじめ、不登校、発達障がい、引きこもり等、こども若者への継続的、総合的な支援に対応する ・子ども・若者総合サポートシステムの構築	・支援が途切れる ・将来ビジョンがない ・個人情報管理が難しい ・チャレンジドオフィスをバージョンアップさせる ・包括的なサポート体制（子育て）
発表内容 要旨	
大きなテーマとして「人・もの・お金が循環するまちづくり」を掲げた。 それぞれ様々な意見があがり、それを「定住」、「教育」、「土地の有効活用」、「連携」の4つのグループに整理した。 「定住」について 魅力ある街づくりが大切。市街化調整区域開発の一部見直しをして、特に梨園が廃業して耕作していない土地の有効活用として、みどりを植栽した宅地開発することで、若者と固定資産税の増加が見込めるのではないかという意見があった。 また、移動手段の確保も大切で、循環バスは働き手が不足していて、どこの自治体においても減少傾向にあるため、それを補うためデマンド交通を導入してはどうかと考えた。デマンド交通を行う際は、業者に委託するのではなく、NPO 法人が主体となって運営する方法をとってはどうかという意見があった。 「教育」について 子育て世代に選ばれる街のためには、教育の重要性が増している。 学校の前に幼稚園や認定こども園があったり、小中一貫教育など質の高い教育ができればよい。特に学生時代に白井市の良さを知ってもらうことが大切という意見があった。 「土地の有効活用」について 市の土地や個人の土地で使われてない土地を有効活用することが大切で、駅前を活性化して、多くの人が集まれるまちにしてはどうかという意見があった。 「連携」について 持続可能なまちづくりのために、各自治体や大学などとの連携が大切で、なし坊を含め、せっかくコラボできたウマ娘をもっと活用できればよいという意見があった。 人材活用充実のためには、親元に子どもを呼び寄せて支え合う社会の実現も大切。少子高齢化によ	

り労働者が減っている。大学民間連携によって様々な人材確保が大切という意見があった。

また、誰でも働ける場の整理ということで、障がい者雇用など多様性をもって、白井市で働ける場所を提供することが大切。魅力あるまちづくりのために、包括的なサポート体制、子育てという面で充実してはどうかという意見があった。



模造紙の内容

【子育て】

- ・子どもと親ファーストの保育・学校
- ・子育てしやすい街づくり
- ・おいしい給食
- ・第二小学校を新しい形態の学校にする
- ・小中学校の広域化
- ・給食全員無償化
- ・農家体験

【共生】

- ・外国人との共生のまち
- ・動物との共生
- ・多様な教育（手話 etc、障がい、外国語）
- ・他者への理解
- ・外国向けコンシェルジュサービス

【居心地】

- ・居心地のよい街
- ・探検、散歩できる街
- ・1人でもみんなでも過ごせる場所
- ・若者が遊べる街（カラオケ、バスケットゴール）
- ・公園にバスケットコート
- ・総合公園に BMX、ボードパークを
- ・e スポーツの誘致（企業など）
- ・農業公園を造る

【つながり】

- ・誰もが活躍できる街
- ・健康に元気に過ごせる街づくり
- ・ナッシー号日・祝運航
- ・北総線の普通運賃値下げ

【つながり（続き）】 ・公共交通の体系見直し ・自転車道の整備 ・行政間の広域連携 ・移動しやすい公共交通 【居心地とつながり両方に係るもの】 ・学校施設と高齢者施設の融合 ・公共施設利用無料（利用アップ） ・利用者ファーストの公共施設 【にぎわい】 ・見どころスポットの創設（複数） ・駅前、にぎわい活性化 ・生活環境を守った開発 ・観光課 ・街中にベンチと机を ・緑、桜を守る ・（働く人）工業団地を考える	・ヒッチハイクのまち ・白井・西白井歩道のお色直し ・市の PR の工夫 ・空き家バンク、空き家の有効活用 ・農家の負担軽減（スマート農業） ・昼間人口を増やす工夫 ・白井駅前の一体的な再開発と活性化 ・梨プラスアルファの農作物（例：シャインマスカット） ・文化センター売りは維持して残す ・駅前市道を開放 ・文化会館をまちの中心、プロムナード ・なしの泉を芝生に ・文化の祭り（映画、アート、アニメ、音楽、お笑い） 【その他】 《税収アップ》 ・企業誘致、基本方針に示されている区域の特性に合った開発 ・データセンターとの本社の誘致
発表内容 要旨	
テーマを最初に出さず、それぞれの政策を多く挙げた後、どうしてその政策が必要なのか根幹的な部分を追求しながら、それぞれの政策の共通した要素をまとめた結果、「子育て」「共生」「居心地」「つながり」「にぎわい」の 5 つのテーマに分類された。特に人とのつながりのテーマで盛り上がった 「子育て」について 子ども達や親御さんが今思っている要求を基に親ファースト、子どもファーストでやることが大切。 具体的な意見は、第二小学校のあり方をいろいろ考えていいのではと考えた。例えば、おいしい給食の提供。給食無償化。農家を活かした体験学習。学区に縛られず桜台や印西市の子どもが通学してもよいのではないかな。 「共生」について 現実問題として外国人が増えている。コンシェルジュがいて過ごしやすい、働きやすい環境を作る	

ことが大切。動物、主に猫との共生も大切で、総じて他者の理解、異文化を理解が平和で仲良く暮らすにも繋がるので大切。手話を学ぶことや、他自治体の例で、逆にそこにいる外国人の言語を学ぶという取り組みも共生には必要。

「つながり」について

北総線やバスなどの交通の充実、居心地のよい白井にすることや人が集まってにぎわいを造るという目的に繋がる。

具体的な意見は、北総線運賃の値下げ、ナッシー号の祝日利用など。高齢者や子ども達若者も市内で移動したいという声がワークショップの意見にあがっていた。ヒッチハイクできる、自転車道を整備する等様々な方法の移動手段が提案された。

「居心地」について

先のテーマ「つながり」がもたらすものとして「居心地」がある。居場所と表現される場合が多いが、居心地とした理由は、みんながにぎわうだけではなく、一人でもみんなでも過ごしやすい場所を作るという意味を込めたため。

若者が市外に行かなくても市内で楽しめる場が大切。BMX、スケートボード、バスケットなどができる公園や、農業が体験できる公園など散歩するだけではない様々な体験ができる公園の整備が必要。eスポーツも近年注目を集めている。様々は体験できる市内で遊べる街にしていきたい。

「にぎわい」

いろんな世代が活躍するには外に出ることが必要で、その手段として交通が大切。

観光課をつくって見どころスポットをPRし、昼間人口を増やすことも大切。

昼間人口を増やすために、文化に着目してはどうか。文化センターへ繋がるプロムナードの整備や映画、音楽、アート、アニメ、お笑いなどを活かした文化の祭りの強化などがあがった。

その他、空き家活用も必要。また開発は住んでいる人が幸せに住めることが第一。

市内でも楽しく生きられる白井市が大切。